

水薬師寺みづやくしは西七条でうの南にあり、本尊薬師如来やくし〔延喜二年池いけ中より出現〕辨財天社べんざいてん〔本堂の乾いにあり、社の下に清泉涌出す、平たひらのきよもり 清盛熱病きよもりのとき此水を汲んで冷せしとぞ〕辨慶石べんけいし〔護摩堂ごまだうの前にあり、古は三条辨慶石町べんけいしにありしとなり〕門の額かどがき〔水薬師寺みづやくしと書す、当寺近年の住職泉南せんなんの筆なり。此人草書を善して世に墨跡多し、明和六年寂す〕